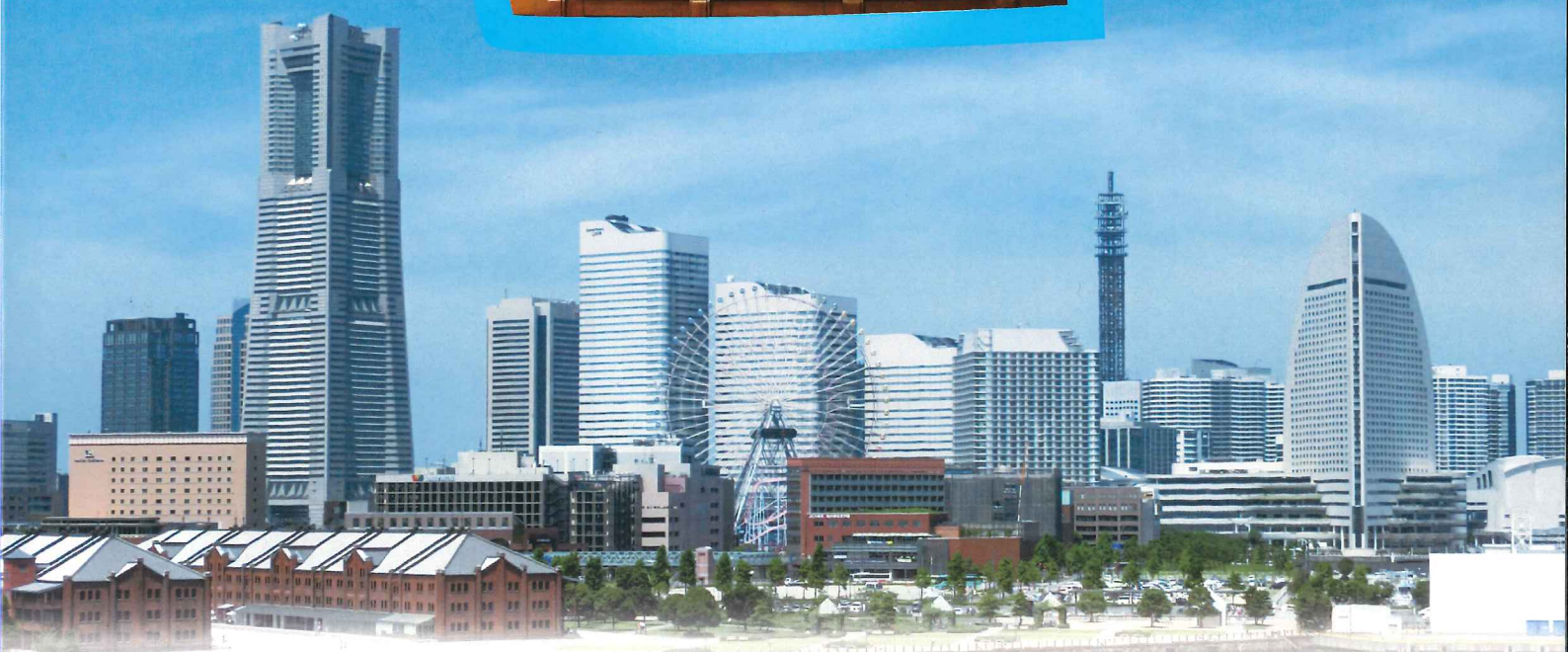
第10回
神奈川県特定施設研究大会

■大会テーマ■

「尊厳」
～私たちが望む未来のかたち～



公益社団法人
かながわ福祉サービス振興会
Kanagawa Welfare Service Association

「となりのかーちゃんありがとう」

～隣人に支えられての独居生活～

神奈川県横浜市
小規模多機能型居宅介護事業所オリーブ
職員　原　亜矢子

1　はじめに

ひとり暮らしのＡさんのキーパーソンは、45 年来付き合いがあるとなりの家の奥さんです。Ａさんはとなりの奥さんの事を「かーちゃん」と呼び、となりの奥さんはＡさんの事を「とーちゃん」と呼んでいます。アルツハイマー型認知症でひとり暮らしのＡさんですが、「となりのかーちゃん」と「地域」と「オリーブ」がかかわる事でひとり暮らしができています。

約４年半のＡさんの支援を通し、日頃からの「地域や人とのつながり」、人の「強み（ストレングス）」などたくさんの学びがありましたので発表いたします。

2　事例の紹介

Ａさん、82 歳、男性、要介護 3

直前の事を忘れてしまう事がありますが、コミュニケーションに問題はありません。サイフをなくしてしまう等金銭管理が困難な場面があります。ＡＤＬはほとんど自立です。洗濯、掃除、買物等は誰かの支援が必要です。

Ａさんは 20 年前に妻と死別、子が 2 人いますが長女とはケンカをしてから全く会っておらず、長男が半年に 1 回程来ています。Ａさんととなりのかーちゃんの関係は、元々同じ社宅に住んでいる時から仲が良く、将来はとなりに家を買おうと約束していたそうです。子育ても同じ時期で家族ぐるみの付き合いがありました。となりのかーちゃんは美容院をやっており、忙しかったのでいつもＡさん夫婦に子育てを助けられたという思いと、信念はボランティアという思いがあるそうです。

Ａさんとオリーブの出会いは平成 24 年 9 月です。現在もサービスを利用中です。サービス開始時は要介護 1 でした。「日中外に出ていたら誰が留守番をするんだ」と言い、通いサービスには参加しませんでした。訪問は喜んで受け入れてくれました。掃除、買物、お話、となりのかーちゃん不在時にお弁当を届けるなどの支援をしました。

平成 25 年 5 月に大きな出来事がありました。Ａさんは車で外出し、3 日間戻らず、捜索願の提出、埼玉県で一時停止無視による交通事故を起こし、フロントガラスは割れ、タイヤは曲がっていたほどでしたが、Ａさんは事故のことを覚えていませんでした。

大きな出来事の後、リスクはたくさんありましたが、となりのかーちゃんも長男も「施設入所」ではなく、Ａさんが自宅で生活したいという強い思いを大切にしようとしました。

Ａさんは自分が死んだ時は、自宅で葬儀をしてほしいという希望があり、家を建てる時に、庭に面した 2 部屋を和室にし、妻が亡くなった時も自宅で葬儀をしたそうです。

となりのかーちゃんや地域のかかわりはそのまま、オリーブのサービスをしっかりと整えてひとり

暮らしの継続をはかることになりました。

そして在宅生活を続けていくための話し合いの中、「認知症」「出来ない事」「問題の状況」などのマイナス面だけではなく、A さんには「強み」がたくさんあることもわかりました。今まで習慣でやってきた事が出来る、インフォーマルなつながりが元々強い、ひとり暮らしを続けたい強い思いなどです。支援体制を整えることで、ひとり暮らしを続けられると考えました。

それぞれのかかわりとして、地域・・・となりのかーちゃんは今までどおり食事を届け、地域活動への参加の声かけ、オリーブ・・・となりのかーちゃんがいない時は代わりをつとめ、楽しく健康的な生活が出来るための支援、掃除・洗濯・買物などをプランに入れました。家族・・・長男はとなりのかーちゃん・オリーブと連絡を取り合い、介護サービスの調整についてはとなりのかーちゃんに任せるなどの役割の確認を行いました。

3　実施及び結果

交通事故という大きな出来事から 4 年近くが経過しましたが、今でも A さんが望むひとり暮らしが出来ています。地域での生活の継続、地域活動への参加、社会とのかかわりがあり、認知症に大きな変化はなく、落ち着いた生活が出来ています。ADL は変わらず、体調が良く、今では「オリーブに行くのが一番の楽しみ」と言われています。

現在の A さんのエコマップに示すように、インフォーマルな関係として、地域のボランティアが草むしりに来たり、お祭りや飲み会への参加があります。そしてとなりのかーちゃんが毎日かかわっています。フォーマルな関係では、オリーブがかかわることで、内科や精神科への受診が出来ています。

A さんがもらす「ここまで生活ができたのはかーちゃんのおかげ」「いなくなったら何も出来ないよ」と言う言葉から A さんのとなりのかーちゃんに対する感謝の気持ちが感じられます。

4　評価・考察

①　強みを知り支援に活かすストレングスの視点として

「問題解決」だけではなく、リスクを把握した上で、強みを活かしたアセスメントを実施したことで、A さんの望む生活が 4 年近くできていると考えられます。

②　地域包括支援システムの視点として

介護度が高くても、認知症のひとり暮らしの方でも在宅生活を選択する人が多いです。

小規模多機能型居宅介護のサービスであるオリーブは、サービスを利用する方の生活を支えるための「大きな柱」になることができると考えます。

5　今後の課題

1. 強みを活かした「ストレングス視点」でのアセスメントの継続とリスクの把握
2. 認知症・身体状況にあったサービスの提供
3. となりのかーちゃんが今のようなかかわりができなくなった時の精神的な支えについて、家族と一緒に検討すること

6　おわりに

A さんが決めた「自宅での生活」「自分が死んだ時は自宅で葬儀をしてほしい」「今までどおり地

域とかかわりたい」という思いは、誰も変えられないことです。これからもその人らしさや思いを尊重し、強みを知り支援に活かしていきたいです。

7　参考文献

『相談援助の理論と方法Ⅰ』　社会福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規出版　2010 年出版
『相談援助の理論と方法Ⅱ』　社会福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規出版　2010 年出版
『地域包括ケアシステム』　高橋　紘士著　オーム社出版　2012 年出版